

# 営 農 情 報

令和5年4月25日  
第6号

## 秋まき小麦（きたほなみ）の赤さび病予防防除について

本年の秋まき小麦圃場の一部では、赤さび病の発生が確認されております。  
赤さび病は高温・干ばつで発生しやすくなりますが、一度病斑が広がってしまうと、止めることが難しくなってしまいますので、止葉期前に予防防除を実施しましょう。

○赤さび病に効果のある薬剤

薬 剤 名	使用回数	使用時期	処理濃度	散布液量 (L/10a)	備 考
アミスター20フロアブル	3回以内	4月下旬～ 5月上旬頃	2000～3000倍	100～200	昨年赤さび病発生が 確認された圃場は必 ず散布する。
ミリオネアフロアブル	2回以内	止葉期	4000倍～8000倍	50～150	
イントレックスフロアブル	3回以内		2000倍	60～150	

○管内赤さび病の防除実施率（※R4実績）

### 〔 防除の実施による収量差は歴然！ 〕

下記のデータから読み取れるように、防除の有無により収量への影響が大きく関わっていることがわかります。まずは防除を行い基本的技術の励行に努めましょう。

項目	高収量者（製品反収9.5俵/10a）	低収量者（製品反収2.5俵/10a）
実施率	88%	38%
使用時期	4月25日 ～ 5月25日 （最盛期5月10日頃）	—
散布水量	100L・・・100%	100L・・・86% 90L・・・14%

## 秋まき小麦の除草剤散布について

除 草 剤 名	使用回数	使 用 時 期	10a当たり 施用量	備 考
エコパートフロアブル	2回以内	・ 広葉雑草2～4葉期 ・ 小麦止葉抽出前まで ・ 収穫45日前まで	50～75ml	高温時の 散布は避ける
MCPソーダ塩	1回	・ 幼穂形成期 ・ 収穫45日前まで	200～300g	日中気温20℃ 以上で散布
バサグラン液剤	1回	・ 幼穂形成期 ・ 収穫45日前まで	100～200ml	—

## JA み ね の ぶ 営 農 推 進 協 議 会

TEL 0126-67-2334 FAX 0126-67-2803